

学校法人村崎学園
徳島文理大学短期大学部
機関別評価結果

平成23年3月24日
財団法人短期大学基準協会

徳島文理大学短期大学部 の概要

設置者	学校法人 村崎学園
理事長名	村崎 正人
学長名	桐野 豊
ALO	阿部 頼孝
開設年月日	昭和36年4月1日
所在地	徳島県徳島市山城町西浜傍示180

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
生活科学科	生活科学専攻	40
生活科学科	食物専攻	40
保育科		70
言語コミュニケーション学科		40
音楽科		30
商科		40
	合計	260

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

徳島文理大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 23 年 3 月 24 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 21 年 6 月 17 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

「自立協同」の建学の精神の基に、教育目的・教育目標として「教養教育・人間教育」と「職業教育・実務教育」という二本柱を掲げている。

建学の精神を具現化するために、一般総合科目として「文理学」を設け、導入教育の一環として位置付けている。また、選択科目の自由度は高く、学生のニーズに対応している。

教員組織は短期大学設置基準を満たしており、活発な教育活動が展開されている。校地・校舎面積は短期大学設置基準を満たし、教育環境として適切に整備されている。

単位認定は、シラバス記載の授業目標及び評価方法に沿って適切に行われている。また、クラス担任制及びチューター制と事務組織が連携し、学生に対するきめ細かい指導体制が整っており、資格取得に向けた指導が行われている。

入学希望者に対しては、教育目標及び各学科の教育の特色、学生生活・就職状況、入学者選抜方法などの情報が明示されている。アドミッション・オフィス（AO）入試合格者に対する入学前教育も行われている。就職支援体制は充実し、就職率が高い。

研究紀要などの研究成果発表の機会が設けられており、研究活動を行う十分な環境と時間が確保されている。また、専任教員の 1 年間の教育・研究活動の成果をまとめた『教育・研究年報』が毎年発行されている。

地域社会との交流活動の一環として、併設大学と共同で公開講座を開講している。また、地域の施設と連携し、学生のボランティア活動を奨励している。さらに、各教員が地域社会の公開講座や各種公演の講師を務めるなど、地域社会の行事に積極的に参加している。

理事会及び評議員会は寄附行為に基づき適切に運営され、監事は適切に業務を遂行している。理事長は、自ら大学行事に積極的に参加し、リーダーシップを発揮している。教授会や各種委員会等は規程に基づき、学長のリーダーシップの下、適切に運営されている。

財務情報はウェブサイト上で概要が公開されている。財務状況は、短期大学部門に

おける収支バランスに課題があるものの、学校法人の余裕資金はあり、中期財務計画も策定されている。

平成4年に自己点検・評価に関する規程が定められ、自己点検・評価委員会の下に設けられた六つの専門部会を中心として、自己点検・評価活動を進めている。改革・改善のための諸規程及び組織はおおむね整備されている。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

○ 建学の精神や教育目標などについて、1年次に一般総合科目として「文理学」を開講し、理事長を初めとして多くの教職員が講義を行っている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

○ 平成19年度に「徳島文理大学教育開発機構」を設立し、研修会、研究授業などを実施し、授業改善に向けたファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を全学的に行っている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

○ 学生は卒業と同時に同窓会組織「アカンサス会」に入会し、「徳島文理大学通信」を通して連携を図っている。また、大学の記念事業が実施される年は卒業生のためのホームカミングデーを設け親睦を図っている。

評価領域Ⅴ 学生支援

○ 学生の生活指導等の問題に関しては、学生、クラス担任・チューター、保護者との三者面談による学生に対するきめ細かい指導体制が整っている。

評価領域Ⅵ 研究

- 「特色ある教育研究・共同研究」に対する研究助成制度が設けられ、教員の研究活動が奨励されている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 保育科では、ボランティアに参加した後に、活動記録とレポートの提出を義務付けるなど、学生の社会的活動を単位として評価している。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 平成4年に規程を設け、自己点検・評価活動に取り組んでいる。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域Ⅸ 財務

- 余裕資金はあるものの、短期大学部門の収支バランスの改善が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

「自立協同」の建学の精神を具現化するために、「教養教育・人間教育」と「職業教育・実務教育」という二本柱を教育目的・教育目標として掲げている。教職員に対しては、平成 20 年度に「建学精神懸賞論文」を募集し、優秀賞に選ばれた懸賞論文 3 編を研究紀要に掲載するなど、学内の共有化にも努めている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

建学の精神を具現化するために、一般総合科目として「文理学」を設け、導入教育の一環として位置付けている。また、学科ごとの教育目的・教育目標の実現に向けて教育課程を編成している。学生の学力やニーズが多様化する中、社会人として必要な基礎的知識や能力を養成することを目的に科目を設定している。さらに、教育課程において免許・資格取得に配慮し、選択科目の自由度は高く学生のニーズに対応している。各学科とも、学生の意欲を引き出させるための個別指導に時間と努力を費やしている点が評価できる。シラバスは授業概要到達目標、成績評価基準が具体的に説明されている。平成 19 年度に「徳島文理大学教育開発機構」を設立し、研修会、研究授業などを実施し、授業改善に向けた FD 活動を全学的に行っている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教員組織は短期大学設置基準を満たしており、活発な教育活動が展開されている。

短期大学設置基準を充足する校地・校舎面積を有し、教育環境として適切に整備さ

れている。また、施設設備等は障がい者に配慮したものとなっている。

図書館は学生の学習空間として環境整備が行われている。また、ウェブサイトで図書館の館内及び利用案内などを一般公開しており、学内のパソコンからは図書館所蔵の資料に関する検索サイトにアクセスすることができるなど、図書館の利用促進に努めている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

単位認定は、シラバス記載の授業目標及び評価方法に沿って適切に行われている。また、クラス担任及びチューターによる学生に対するきめ細かい指導体制を整え、学生及び保護者と綿密に相談しながら退学者数の抑制を図っている。

資格取得に向けての指導が行われ、専門分野への就職率は良好である。また、卒業生に対する就職先からのアンケート調査では好意的に評価されており、同窓会を母体として卒業生との連携も整備されている。

評価領域Ⅴ 学生支援

入学希望者に対しては、教育目標及び各学科の教育の特色、学生生活・就職状況、入学者選抜方法などの情報が明示されている。入学前教育として、AO入試合格者に対して課題を与えるなど、きめ細かい支援体制がとられている。事務組織（総務ユニット、教育・研究支援ユニット、学生支援ユニット、就職支援ユニット、アドミッションズ・オフィスなど）は併設大学と共通となっている。特に、学生支援では学生支援ユニット、クラス担任制及びチューター制が併用され、学習活動にも連携しあう支援体制が整備されており、近年は退学者・休学者が減少している。平成19年度には、基礎学力の向上を目的として、併設大学と共同の「全学共通教育センター」が設置された。就職支援ユニットの中の「キャリア・サポートグループ」と各学科が連携して充実した支援を行っており、就職率も高い。

評価領域Ⅵ 研究

多くの教員が学生の教育、社会貢献の分野で活躍している。平成21年度の教員の担当授業数は平均5コマであり、研究紀要などによる研究成果を発表する機会も設けられ、研究活動のための十分な環境と時間が確保されている。

また、教育研究活動を点検するために、専任教員の1年間の教育研究活動の成果をまとめた『教育・研究年報』が毎年発行されている。年報では、学科及び短期大学全体としての自己点検・評価を行うとともに、各教員の①授業、②研究、③学生指導、④その他の教育研究上の業務について報告している。

また、学内に「特色ある教育研究・共同研究」に対する研究助成制度が設けられており、専任教員の研究活動を奨励している。平成19年度に2件、平成21年度に1件の採択があった。

評価領域Ⅶ 社会的活動

様々な分野で活躍する講師を招いた徳島文理大学公開講座が、併設大学と共同で年 6 回開催され公開されている。

また、各教員が地域社会の公開講座や各種公演の講師を務めるなど、地域社会の行事に積極的に参加している。

平成 18 年度から 20 年度にわたり、寺院・学校・公民館などを中心に「四国巡礼キャラバンコンサート」を開催し、延べ約 1600 人の参加者を得ている。「Bunri ハンドベルクワイア」は、保育科を中心として特別支援学校、医療センター、乳児院、デイケアセンターに出向き、11 年間続けられてきた。

評価領域Ⅷ 管理運営

理事会及び評議員会は寄附行為に基づき適切に運営されており、監事は適切に業務を遂行している。理事長は、自ら大学行事に積極的に参加しリーダーシップを発揮している。教授会や各種委員会等は規程に基づき、学長のリーダーシップの下で適切に運営されている。また、学長主宰の下、当該短期大学及び併設大学の教学、事務の各部門の責任者で構成する「部局長会」を毎月開催し、理事長も毎回出席するなど、全学的意思疎通、共通理解が図られている。

また、就業規則、給与規程等が整備され、適切に運用されている。スタッフ・ディベロップメント（SD）活動については、組織的な取り組み方の検討が望まれる。

評価領域Ⅸ 財務

予算編成は、各部門の要望が取り入れられ、各部門に通知されている。予算執行も適正に行われている。財務情報は、学園の事業報告としてウェブサイト上で概要が公開されている。財務状況は、学校法人に余裕資金はあるが、短期大学は定員充足率の低下が支出超過を招いている。中期財務計画は策定されており、今後の改善が望まれる。教育研究経費比率は、過去 3 ヶ年とも高い。

施設設備は十分整備されており、管理諸規程により、適切に管理されている。また、「平成 17 年度先導的負荷平準化機器導入普及モデル事業」に認定されるなど、省エネルギーなどの環境保全に積極的に取り組んでいる。

評価領域Ⅹ 改革・改善

平成 4 年に自己点検・評価に関する規程が定められ、自己点検・評価委員会の下に設けられた六つの専門部会を中心に、自己点検・評価活動が進められている。